大阪体育大学
SINCE 1965 OSAKA UNIVERSITY OF HEALTH AND SPORT SCIENCES

令和６年度
運動部活動指導認定プログラム
実施報告書

― 大体大ビジョン２０３１　テーマワード ―

「本物を学び、極める」

未来社会のあるべき姿を見据え、その実現のために、

本物を追求し続ける高い志をもって、社会の多様な価値創造に貢献します。

大体大の力＝３つの本物

①本物の教育力：　本物の人材を育成します。

②本物の研究力：　本物の研究を追求します。

③本物の社会貢献力：　本物の社会貢献事業を推進します。

学校法人浪商学園と大阪体育大学の歩みと運動部活動改革

- 1921　学園創設
- 1964　東京五輪
- 1965　大学開学
- 2015　開学50年
- 2016
- 2018
- 2019
- 2020
- 2021　学園創設100周年
- 2022
- 2023

大島 鎌吉
1964年東京五輪
強化委員長・選手団団長

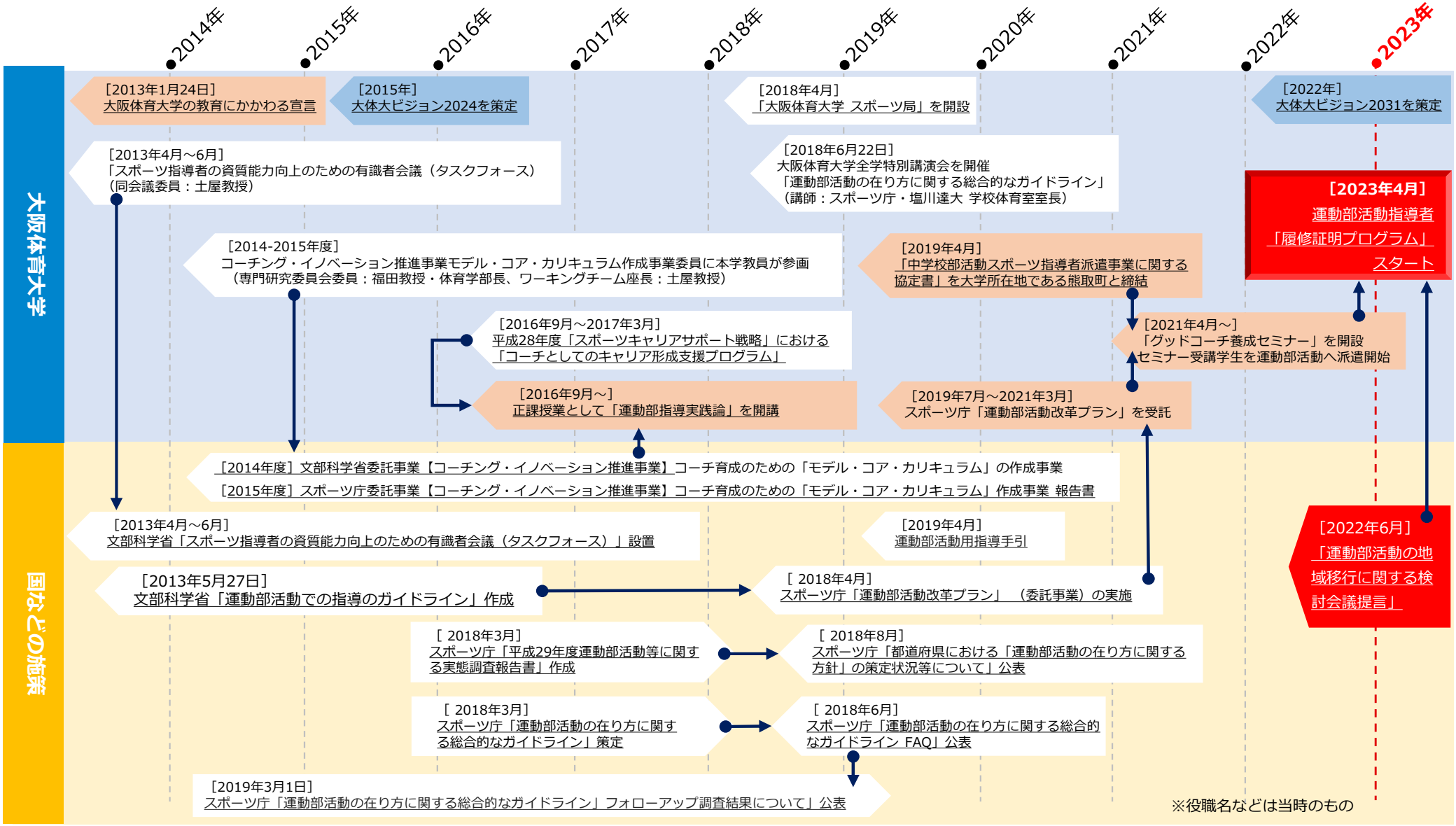
加藤 橘夫
日本体育学会創設メンバー
1964年東京五輪
国際スポーツ科学会議委員

- 2015　大体大ビジョン2024策定
- 2016　DASHプロジェクト開始
- 2018　スポーツ局を開設
- 2019　部活動改革プラン受託 2019-20
- 2021　グッドコーチ養成セミナー開設
- 2022　大体大ビジョン2031策定
- 2023　運動部活動指導認定プログラム開設

建 学 の 精 神

不断の努力により智・徳・体を修め社会に奉仕する

運動部活動改革の関連施策と本学での取組実績



大阪体育大学
OSAKA UNIVERSITY OF HEALTH AND SPORT SCIENCES

- ◆ 社会人対象
- ◆ 現在の指導者のリスキリングの機会とする
- ◆ 運動部活動指導者、または地域スポーツ指導者を目指して学ぶリカレント教育の機会とする
- ◆ 指導者の「継続的な学び」の機会提供と、指導者ネットワーク構築によって英知と経験の共有の機会とする

令和6年度版

- 文部科学省 職業実践力育成プログラム（BP）認定
- 厚生労働省 教育訓練給付制度指定講座（一般教育訓練）
- 日本スポーツ協会（JSPO）公認コーチングアシスタント資格 取得対象講座

現指導者のための、これから部活動を支える人材育成のためのプログラム

運動部活動指導 認定プログラム（履修証明プログラム）の概要①

「履修証明プログラム」

修了生に学校教育法に基づく履修証明書を交付

「職業実践力育成プログラム（BP）」

社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムとして文部科学大臣が認定

「教育訓練給付制度（一般教育訓練）」

厚生労働大臣認定の教育訓練として給付金の対象

JSPO Japan Sport Association　Press Release　2023 年 5 月 12 日

JSPO 公認コーチングアシスタント資格が大阪体育大学「運動部活動指導認定プログラム」（社会人向け）で取得可能となりました！

スポーツを「する」「みる」「ささえる」ための環境づくりを行う JSPO（正式名称：公益財団法人日本スポーツ協会　東京都新宿区／会長 伊藤雅俊）は、このたび、JSPO 公認コーチングアシスタント資格の集合講習として、大阪体育大学の「運動部活動指導認定プログラム」（社会人向け）を承認しました。

同プログラム修了者のうち希望者は、所定の手続きを行うことで、JSPO 公認コーチングアシスタント資格を取得することが可能となります。

- 教育委員会との意見交換「部活動の地域移行は教育的な側面が薄れることに対する懸念」⇒「履修証明プログラム」として展開。
- JSPOは国の第3期スポーツ基本計画に基づき、各競技団体等が主催する大会に参加する際に、監督等がJSPO公認スポーツ指導者資格を有することを義務化すること等を予定⇒JSPOと連携し「JSPO公認コーチングアシスタント」の資格を取得できるプログラムを提供。
- 普及を目指した受講料に対する配慮⇒受講料の低価格設定（20,500円）と教育訓練給付制度の活用。

運動部活動指導 認定プログラム（履修証明プログラム）の概要②

運動部活動指導 認定プログラム　学修内容

『 JSPO 』
モデル・コア・カリキュラムを
基礎とした科目

日本スポーツ協会の「コーチ育成のための『モデル・コア・カリキュラム』作業事業報告書」（2016年3月）で示された「人間力」「知識・技能」「実習」を踏まえて、本学が独自に設定した8科目

『 文部科学省 』
学校の設置者等で行う
13の研修内容

文部科学省「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン（2018年3月）『学校の設置者等で行う13の研修内容』」に対応する本学開講科目内の該当科目数（2020年度調査）

卒業所要単位外

『 大学カリキュラム 』
教育学＆スポーツ科学の
「授業」での学び

体育学部と教育学部において展開されている教育学とスポーツ科学、及びその関連科目における学び

卒業所要単位内

大阪体育大学　8

受講期間・授業の方法

オンライン［オンデマンド配信］
（春開講：5月～9月／秋開講：10月～2月）

ハイフレックス（大阪府泉南郡熊取町 大阪体育大学熊取キャンパス、大阪市北区 大阪体育大学アネックス）
※日程はカリキュラム一覧

課程

履修証明プログラム
（全60時間、自由選択科目全6時間除く）

最少開講人数

春開講／秋開講 それぞれ10名

※最少開講人数に達しない場合は、不開講とします。ご了承ください。

修了要件

必修科目全60時間を履修し、その後に実施するレポート課題または口頭試問の合格をもって修了

運動部活動指導 認定プログラム（履修証明プログラム）の概要 ③

2023年度 カリキュラム

分類	科目名
必修	スポーツマーケティング
必修	運動部活動とメンタルヘルス
必修	スポーツマネジメント
必修	部活動指導員制度の概要
必修	学校教育及び学習指導要領
必修	部活動の意義と位置付け
必修	服務
必修	生徒の発達段階に応じた科学的な指導
必修	顧問や部活動を担当する教諭等との情報共有
必修	安全・障害予防に関する知識・技能の指導
必修	学校外での活動の引率
必修	生徒指導に係る対応
必修	事故が発生した場合の現場対応
必修	障害のある生徒などへの配慮
必修	保護者への対応
必修	部活動の管理運営
必修	女子生徒への配慮
必修	中学校の理解
必修	体罰・ハラスメントの根絶に向けて
必修	裁判例にみる運動部活動の諸課題
必修	部活動における個人情報
必修	コーチング
必修	運動部活動の実践Ⅰ
必修	運動部活動の実践Ⅱ
必修	運動部活動の実践Ⅲ
必修	発育発達
必修	保健室（養護教諭）との連携
必修	部活動におけるICT活用
必修	学校部活動での起こりうるスポーツ外傷・障害とその対応
必修	スポーツ倫理
自由選択	剣道・水泳の指導基礎
自由選択	陸上競技・サッカーの指導基礎
自由選択	バスケットボール・バレーボールの指導
合計：	33科目

2024年度 カリキュラム

分類	科目名
必修	スポーツマーケティング
必修	運動部活動とメンタルヘルス
必修	スポーツマネジメント
必修	部活動指導員制度の概要
必修	学校教育及び学習指導要領
必修	部活動の意義と位置付け
必修	服務
必修	生徒の発達段階に応じた科学的な指導
必修	顧問や部活動を担当する教諭等との情報共有
必修	安全・障害予防に関する知識・技能の指導
必修	学校外での活動の引率
必修	生徒指導に係る対応
必修	事故が発生した場合の現場対応
必修	障害のある生徒などへの配慮
必修	保護者への対応
必修	部活動の管理運営
必修	女子生徒への配慮
必修	中学校の理解
必修	体罰・ハラスメントの根絶に向けて
必修	バイオメカニクス
必修	コーチング
必修	運動部活動の実践Ⅰ
必修	運動部活動の実践Ⅱ
必修	運動部活動の実践Ⅲ
必修	発育発達
必修	保健室（養護教諭）との連携
必修	部活動におけるICT活用
必修	ゲームパフォーマンス分析
必修	心停止・頭頸部外傷・熱中症への対応
必修	スポーツ倫理
自由選択	剣道・水泳の指導基礎
自由選択	陸上競技・サッカーの指導基礎
自由選択	バスケットボール・バレーボールの指導基礎
自由選択	ハンドボール・テニスの指導基礎
合計：	34科目

【削除科目】
- 裁判例にみる運動部活動の諸問題
- 部活動における個人情報（他の科目に包含）

【追加科目】
- バイオメカニクス
- ゲームパフォーマンス分析
- ハンドボール・テニスの指導基礎

【微修正科目】
- 学校部活動での起こりうるスポーツ外傷・生涯とその対応

⇩

- 心停止・頭頸部外傷・熱中症への対応

昨年度の受講生アンケートを踏まえて部活動運営関連を少なくし、スポーツ科学関連を増やした。

運動部活動指導 認定プログラム（履修証明プログラム）の概要 ④

運動部活動指導認定プログラム　受講スケジュール

春：令和6年5月11日
秋：令和6年10月19日

春：5月13日～7月14日
秋：10月21日～12月15日

春：6月6日～8月20日
秋：11月7日～1月19日

春：令和6年9月8日
秋：令和7年2月9日

ハイフレックス	オンデマンド①	オンデマンド②	ハイフレックス
2科目（4時間）	9科目（18時間）	16科目（32時間）	3科目（6時間）
部活動の意義と位置付け 生徒指導に係る対応 オリエンテーションを 兼ねたワークショップ	部活動に関する基礎知識	スポーツ科学に関する知識	運動部活動の指導実践 実践場面を想定した ワークショップ
	受講方法（全科目共通）：動画視聴　→　レポート　→　確認テスト		

開講式
オリエンテーション

※オンライン交流会（フィードバック）
春：7月21日（日）20-21時
秋：12月15日（日）20－21時

修了式

本プログラムで用いるツール
Google Workspace for Education

Classroom
課題配信・管理

YouTube
オンデマンド動画

Forms
レポート・確認テスト

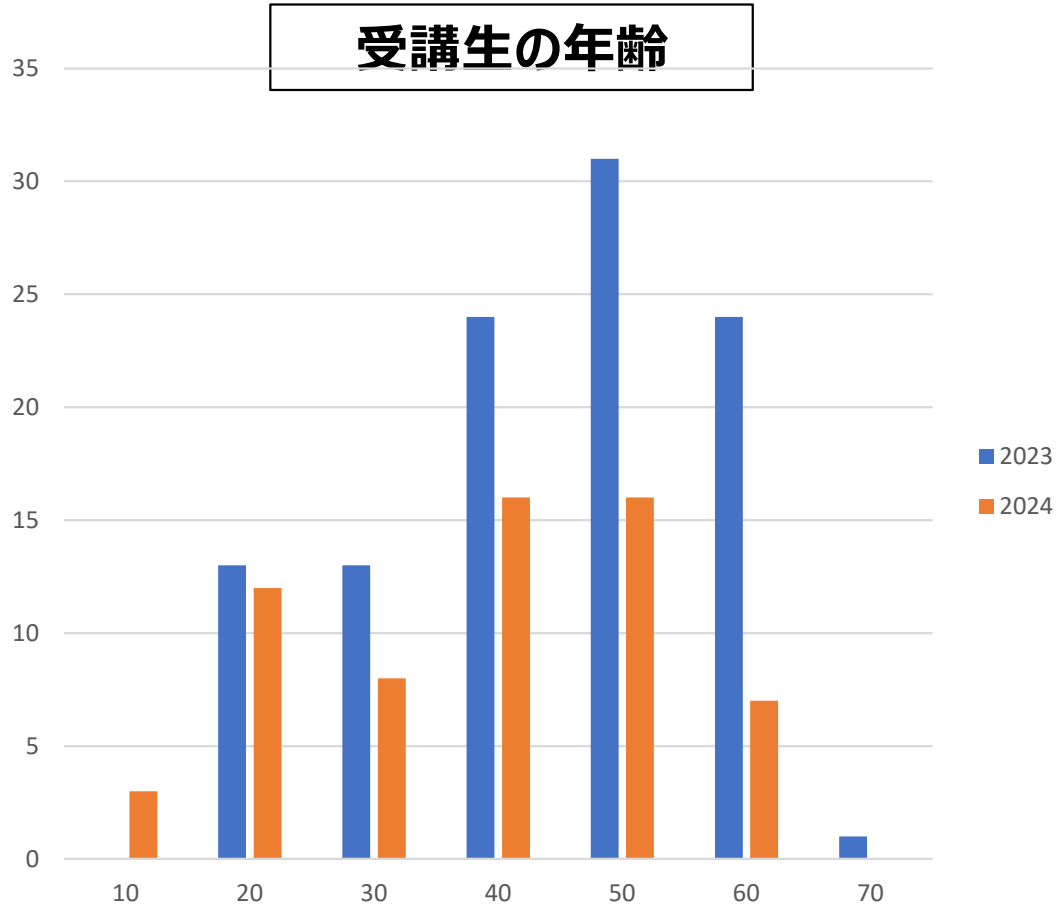
Meet
オンライン交流会
※参加は任意

受講生情報①（基本情報）

	春開講（5-9月） （）内は昨年度	秋開講（10-2月） （）内は昨年度
受講者数	36（59）	25（46）
修了者数	32（51）	22（40）
JSPO資格申込者数	15（24）	19（25）
受講生の年齢（平均）	41.65（45.98）	43.88（50.74）
受講生の年齢（最小）	19（21）	20（20）
受講生の年齢（最大）	64（70）	67（69）

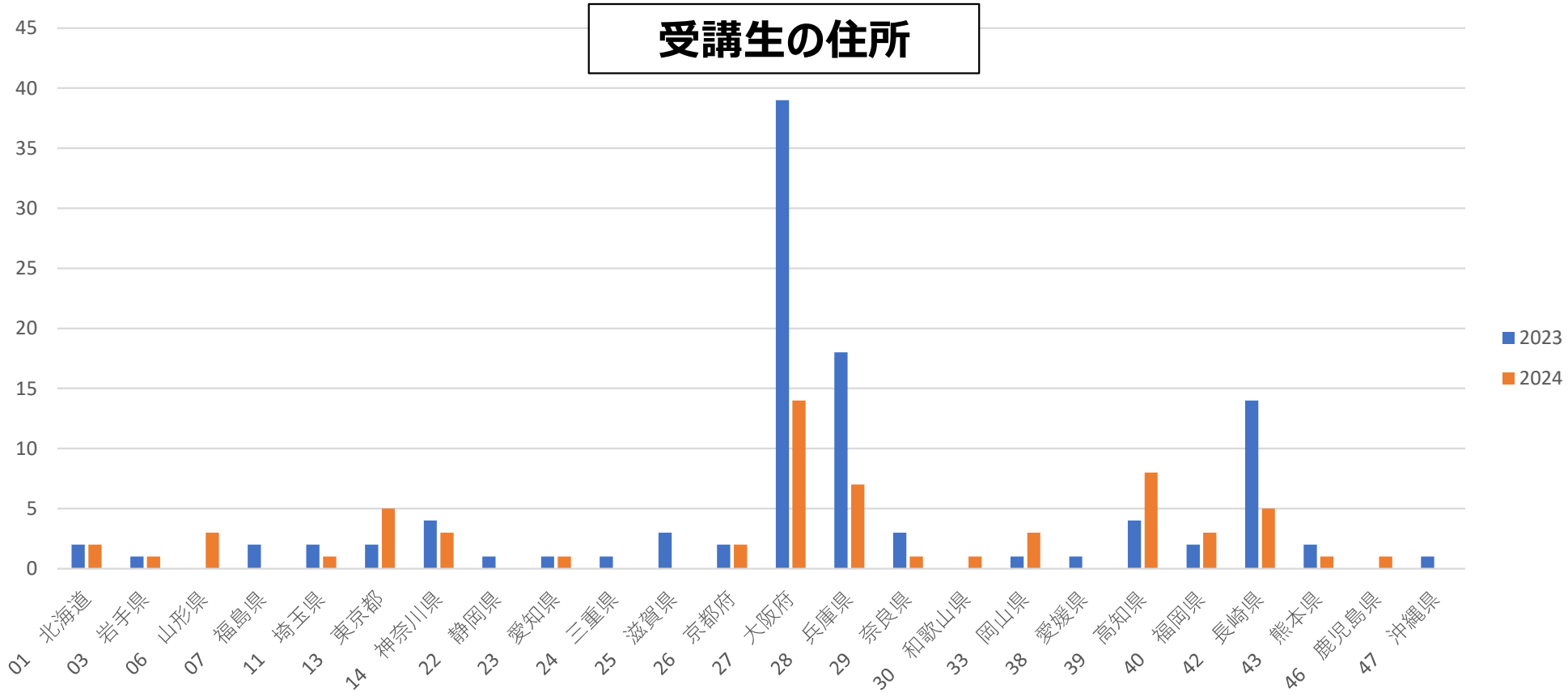
- **受講数は昨年度は春夏合計105名に対して今年度は61名。約4割の減となった。**
- **受講生の年齢が若くなった（詳細後述）。**

受講生情報②（過年度比較）



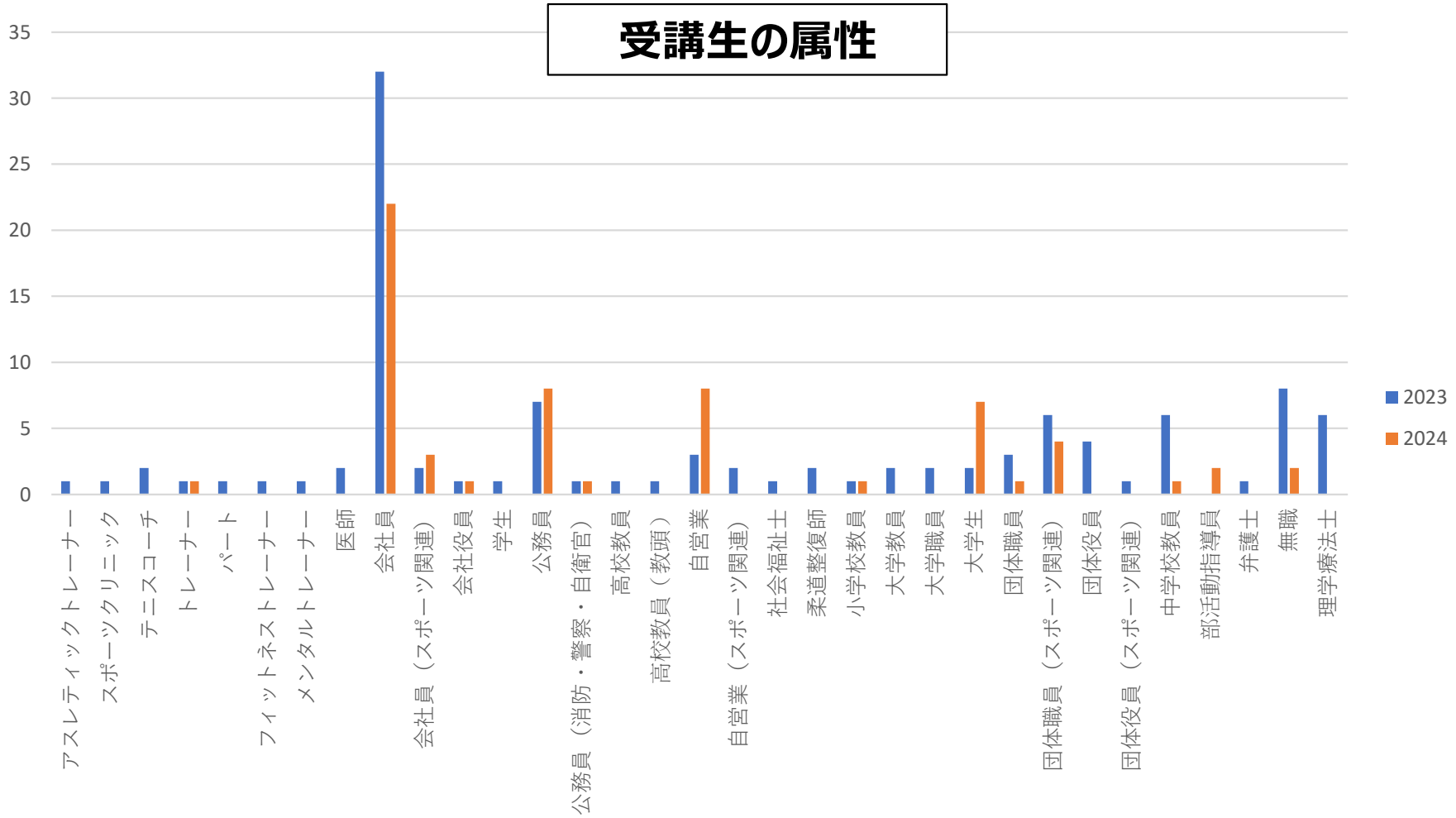
- **10代、20代の受講生の増**
→高知県からの大学生の受講

受講生情報②（過年度比較）



- **受験生の全体像に反して高知県の受講生が増加。**
- **長崎県は昨年度連携した長与町との取り組みはなくなったが、それでも５名が受講した。**

受講生情報②（過年度比較）



- **大学生の増加。**
- **公務員関係の増加は、地域移行の業務についている方の受講が目立った。**
- **その他会社員では部活動の地域移行に興味を持つ報道関係者の受講があった。**

受講生の目的・動機①

スポーツ指導に関する興味・向上

- バレーボール指導・スポーツマネジメントへの興味、スポーツ指導の知識向上
- 将来的に中学生の陸上競技部の指導者になりたいため
- スポーツ指導を通じ、子供達の心と体の成長をサポートすることにチャレンジしたい
- 部活動指導員としての指導の希望や部活動指導員としてより一層の知識向上

地域・学校の部活動への関心・貢献

- 部活動地域移行の受け皿となる民間クラブと関わっており、部活地域移行をスムーズに進めるために本プログラムは必要なスキルだと考えたため
- 地域部活動の指導の予定があるため
- 部活動の地域移行の話題を数年前に知り、会社員でも何か携わる機会はないものかと常々考えていたところ、昨年の日経新聞の記事にこのプログラムが掲載されて目にしたのが受講の動機
- 部活動地域移行を踏まえ指導者資格を取得したい
- 会社からの指示により受講
- 部活動の外部コーチをしているが、移行になるため、受け皿になるクラブチームを設立し指導するため
- 現在、北海道東川町の部活動地域化の戦略立案及び執行を担っており、現場で部活動地域化を推進するにあたり、基礎的な知識やスキルを身につけるため
- 小中一貫校の支援員として働いていて、市のスポーツ推進委員もしており、部活動の地域移行の話を聞いて関心を持ったため

受講生の目的・動機②

将来の職業に役立てるため
- 将来スポーツに関わる仕事に就きたい
- 部活指導の際に役立つと思ったため、周りに広げたい
- スポーツ施設管理業務における自主事業の企画においてスキルアップを図りたい
- 業務で知識が必要なため

個人的な成長・学び
- 自分自身のスキルアップのため
- 4月から中学生を指導するための知識や指導法を学びに来た
- 将来的に副業が可能になれば指導等してみたいと思ったから
- 将来的に何かしら指導の立場で関わりを持ち続けたいと考えているため

ボランティア活動・地域貢献
- 地域における新たなスポーツ環境の構築や中学校などの部活動指導の在り方、その体制づくりに取り組みたい
- 地域貢献
- 子どもたちのスポーツ指導者になりたい、部活の補助員をしたい
- 小学生、中学生のスポーツ指導を行っており、多くのことを学びたい

その他
- ご紹介
- AIスマートコーチ事業に活用するスキル、ノウハウを獲得するため
- 朝日新聞の記事を見て興味を持ったため

「運動部活動指導認定プログラム」授業（対面＆オンライン）の様子

開講（部活動の意義と位置づけ）

オンライン交流会の様子（フィードバック）

運動部活動指導実践Ⅰ

運動部活動指導実践Ⅱ

運動部活動指導実践Ⅲ

その他（自治体との連携）

長崎県・長与町

- 2023年4月より部活動を廃止し、地域スポーツ活動へ移行
- 指導者に対して本プログラムの受講を推奨
- 長与町からの受講生に対しハイフレックス授業10時間を現地で別途実施
- 受講生の受講料補助や本学教員の現地派遣費用を長与スポーツクラブが負担

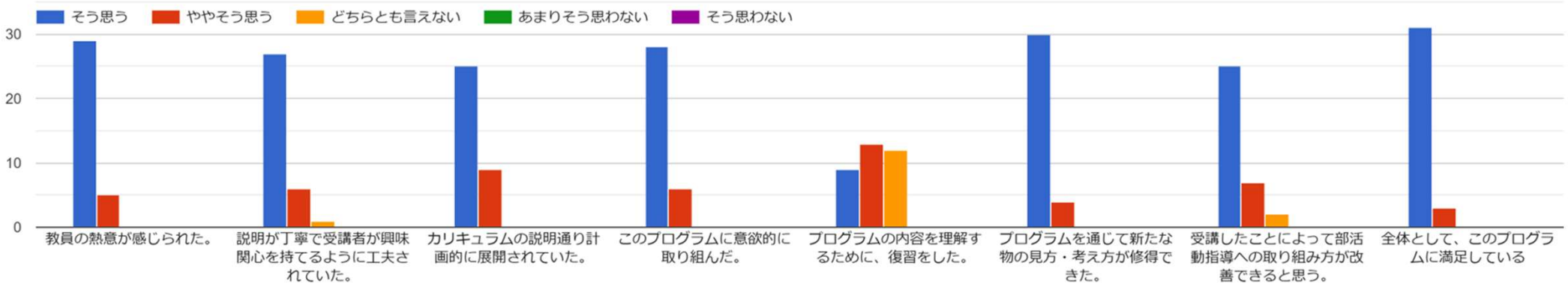
2025年度から（　　）県と連携　→　３年間で300人が受講の予定

授業内容に関するアンケート結果報告

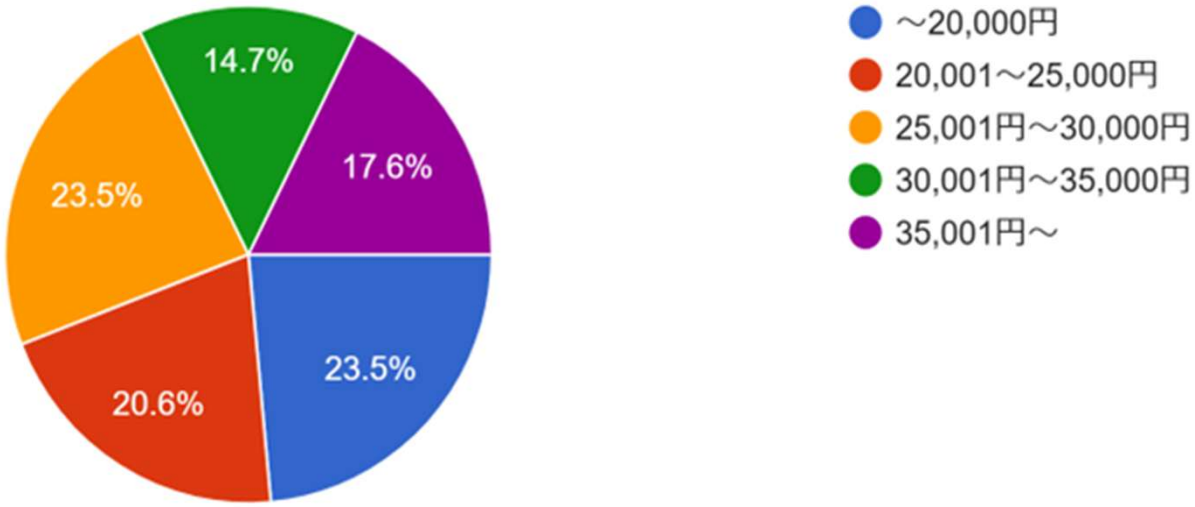
対象者
　春開講　受講生36名（うち修了生32名）
　秋開講　受講生25名（うち修了生21名）
回答者数
　春開講　20名
　秋開講　14名
回答方法
　すべてWEB（Googleフォーム）で実施
期間
　令和6年9月8日から令和6年9月17日
　令和7年2月9日から令和7年2月15日

授業内容に関するアンケート結果報告

・各項目について、あなたの考えに最も近いものをひとつ選んでご回答して下さい。

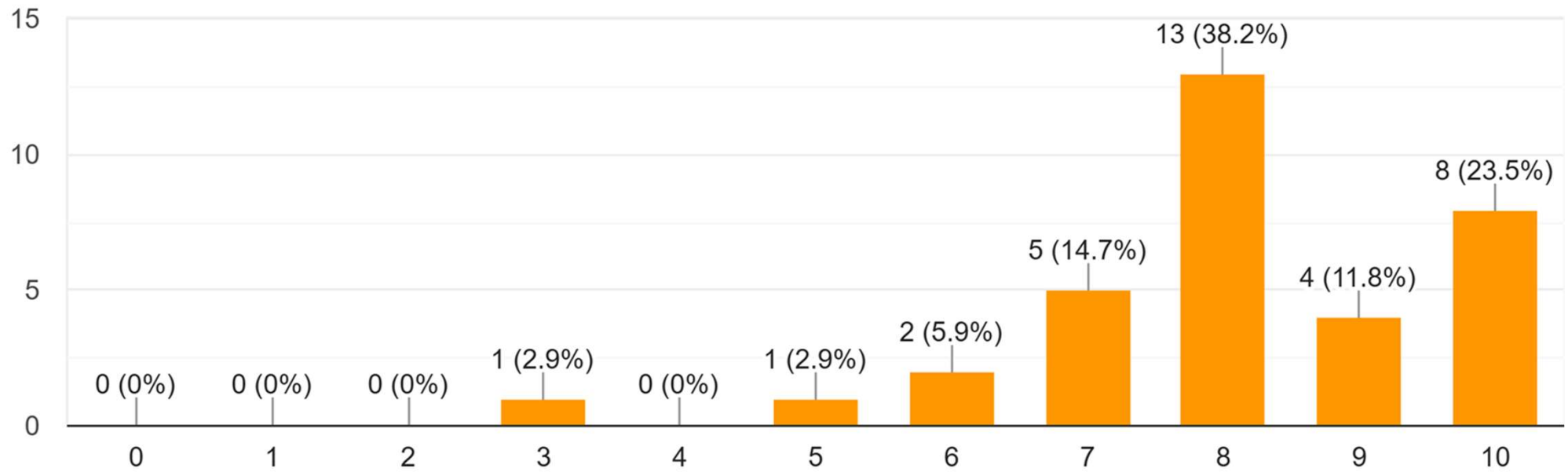


・受講を終えてこのプログラムの受講料について、適切と思われる金額を以下から選択してください。



授業内容に関するアンケート結果報告

あなたは、このプログラムの受講を友人や知人に「勧めたい」と思いますか？



注）全くそう思わない　0・2・3・・・・・8・9・10　非常にそう思う

授業内容に関するアンケート結果報告

このプログラムで良かった点を具体的に挙げてください。　（自由記述）

受講形式

・ハイフレックスやオンデマンド形式で、時間や場所に制約なく受講できる点が良かった。
・遠方からの受講や仕事の合間に学習ができた。

学びの内容と指導者の質

・専門的な内容や新しい考え方、指導法を学べ、指導者としてのスキルアップに繋がった。
・部活動指導に関する基礎から実践的な知識まで、網羅的かつ体系的に学べた。
・指導法や法規、競技指導について新たな知見を得られた。
・実践に役立つ具体的な内容が多かった。
・指導者として求められるスキルを習得できた。
・現場で実際に活動している講師陣の実践的なアプローチが、授業の質を高めた。

学習の進め方と教材

・オンライン講義や動画教材を利用することで、自分のペースで学習ができ、理解が深まった。
・教材の多さや、質問対応の迅速さが学びやすさを高めた。
・YouTubeを活用した学習が、日常的に触れているツールであったため続けやすかった。

実践と交流の機会

・最終日の実践指導やハイフレックス講義で、受講生同士の交流ができた点が有意義だった。
・対面での実技や交流が、学びを深める機会として価値が高かった。

授業内容に関するアンケート結果報告

改善点や要望、提案事項があれば具体的に記述してください。（自由記述）

課題や提出方法
- 課題提出方法に統一感がなく、提出後の状態表示に不具合があった。
- 提出期限の案内が不十分であり、最終課題の提出期間が短かった。
- レポートの形式が時間と手間を要し、長文以外の問いかけ形式を増やすべき。

オンラインと対面授業
- 対面授業をもう少し増やし、クラスメイトとの交流を深める機会を希望。
- オンライン授業の音声が不均一だった。
- 対面授業を2日間設け、その後のオンライン授業に反映できるような内容を希望。

講義内容と学習環境の改善
- 実技や最新の実践ノウハウに関する講義を増やしてほしい。
- 長期間の講義期間や、働きながらの受講にもう少し余裕がほしい。
- 資料の統一化や、スマホでの入力がしやすい環境の整備が必要。
- 音声のバラつきや設備面での改善が必要。

その他
- 生徒同士の交流機会をもっと提供してほしい。
- 講義資料のサイズや形式を統一し、整理しやすくしてほしい。
- リモート組とのコミュニケーションの時間やディスカッションの機会を増やすべき。
- 更衣室の配慮（男性用も必要）や、飲み物の提供の呼びかけがあれば良かった。

昨年度意見交換会で頂いた主なご意見

- **プログラム修了生の活動状況の把握について（巽　様）**
  → 今後、詳細の把握に努めていくが、既に活動中の方も受講していた。（大学）
  → 国への報告も必要となるため、調査を予定している。（大学）

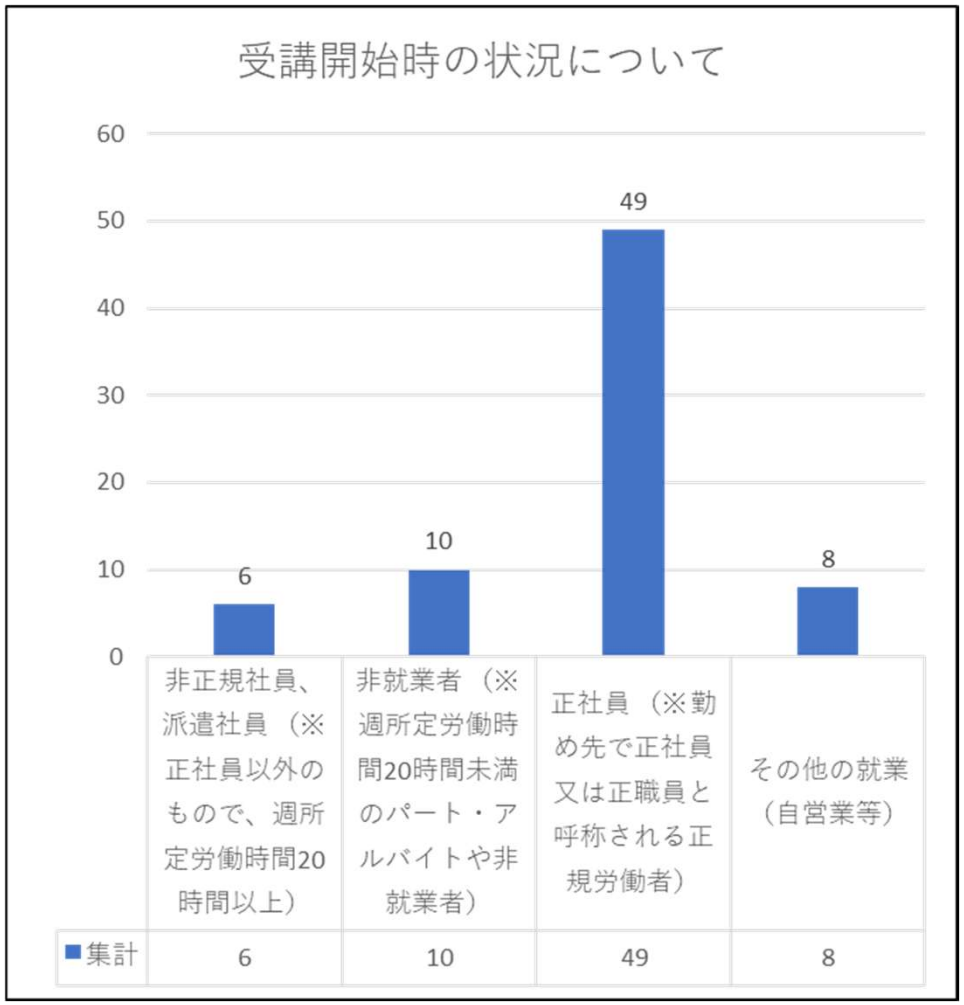
- **60時間というボリュームについて（大学）**
  → 月単位で考えるとそれほど多くはなく、1科目2時間程度あれば問題ないのではないか（相樂様）。
  → 子育て中の方には厳しいので、1年間かけて受講できれば有難い（巽様）。
  → 研修を勤務扱いにすると60時間は長く厳しいかもしれない（河井様）。

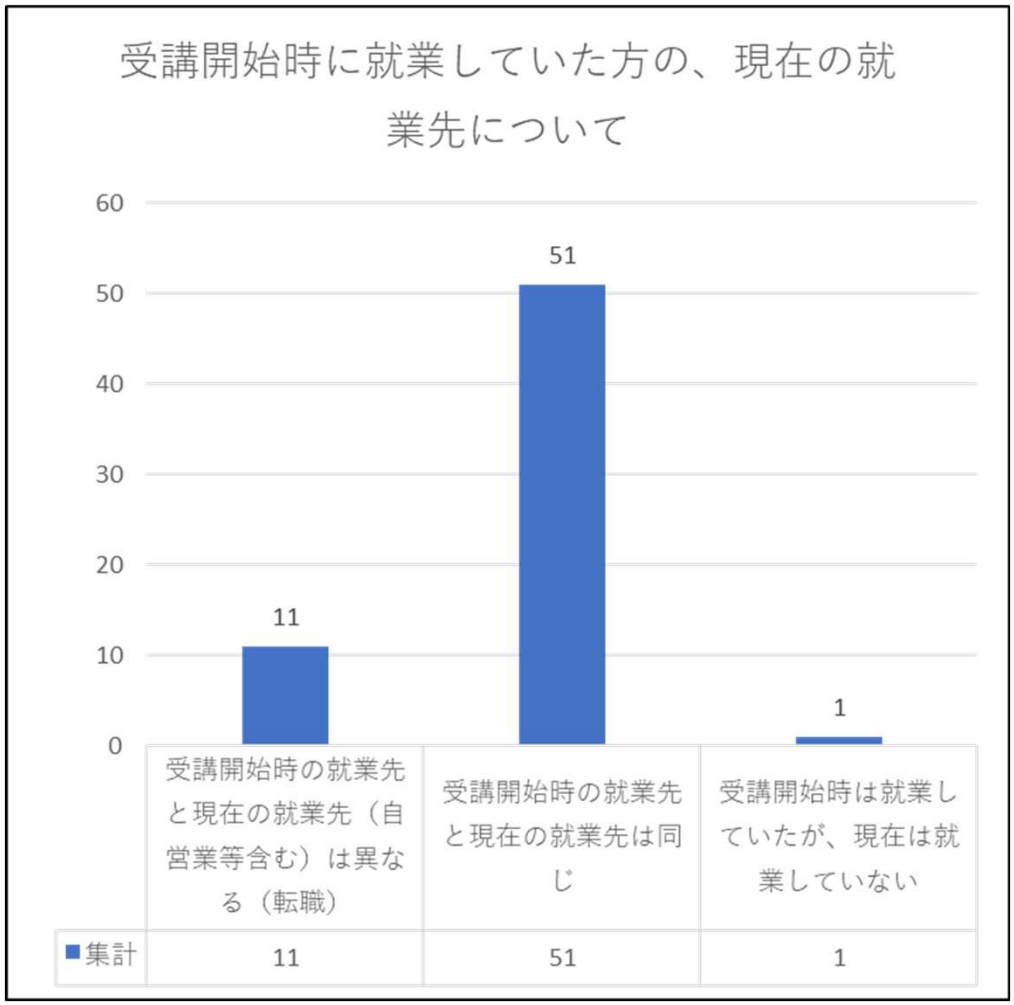
- **一部のみ（例えば10時間程度）を受講することができた場合、それを推奨する可能性はあるか（大学）**
  → 熊取町では大阪府で実施する研修会への参加を義務付けているが、年2回しか機会がないため、有難い機会である（河井様）。

- **受講料の金額設定（20,500円）はどうか（大学）**
  → 他大学の事例を聞くと安いと感じる（相樂様）。
  → 妥当だと感じるが、学生は高額に感じるのではないか。
  スポーツや体育系の学部のある大学としては、補助や単位化も検討できるのではないか（巽様）。

2023年度　意見交換会で頂いた主なご意見

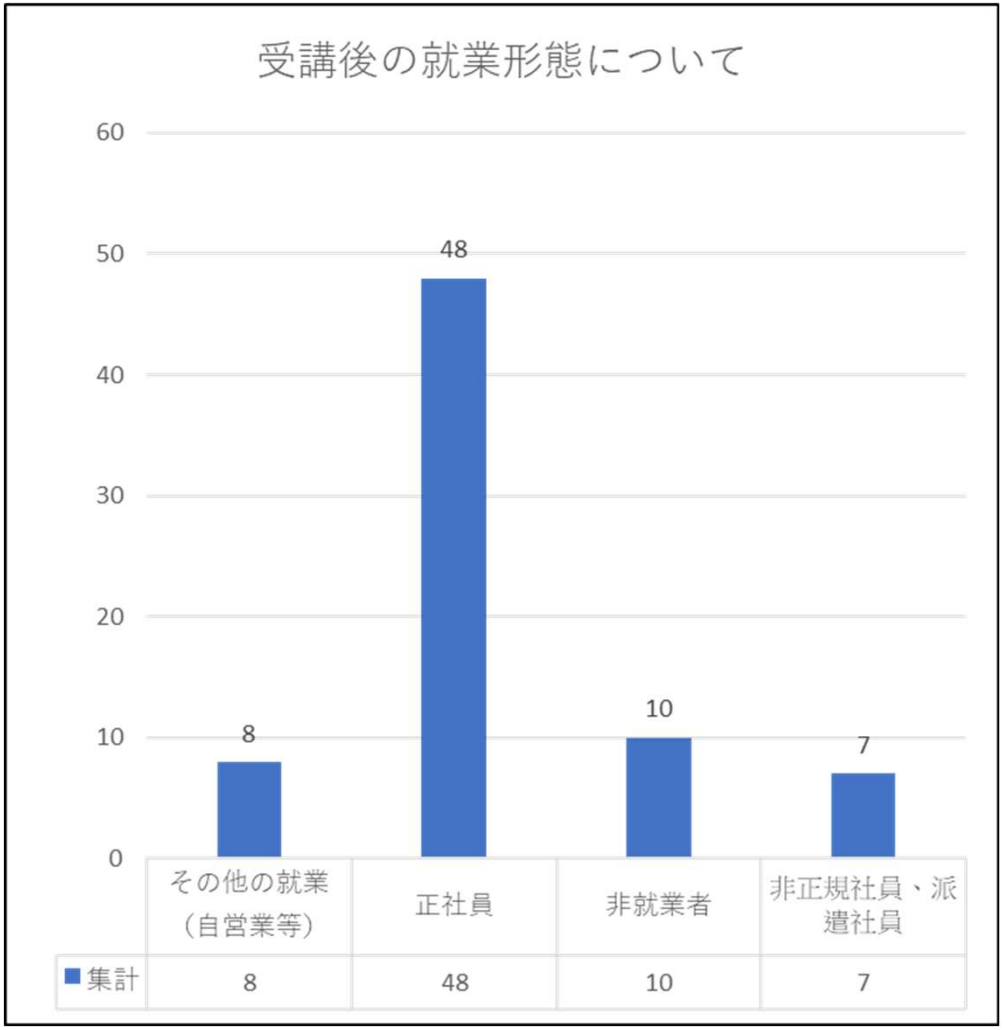
厚労省　現況報告書より、2023年度受講生へのアンケート結果

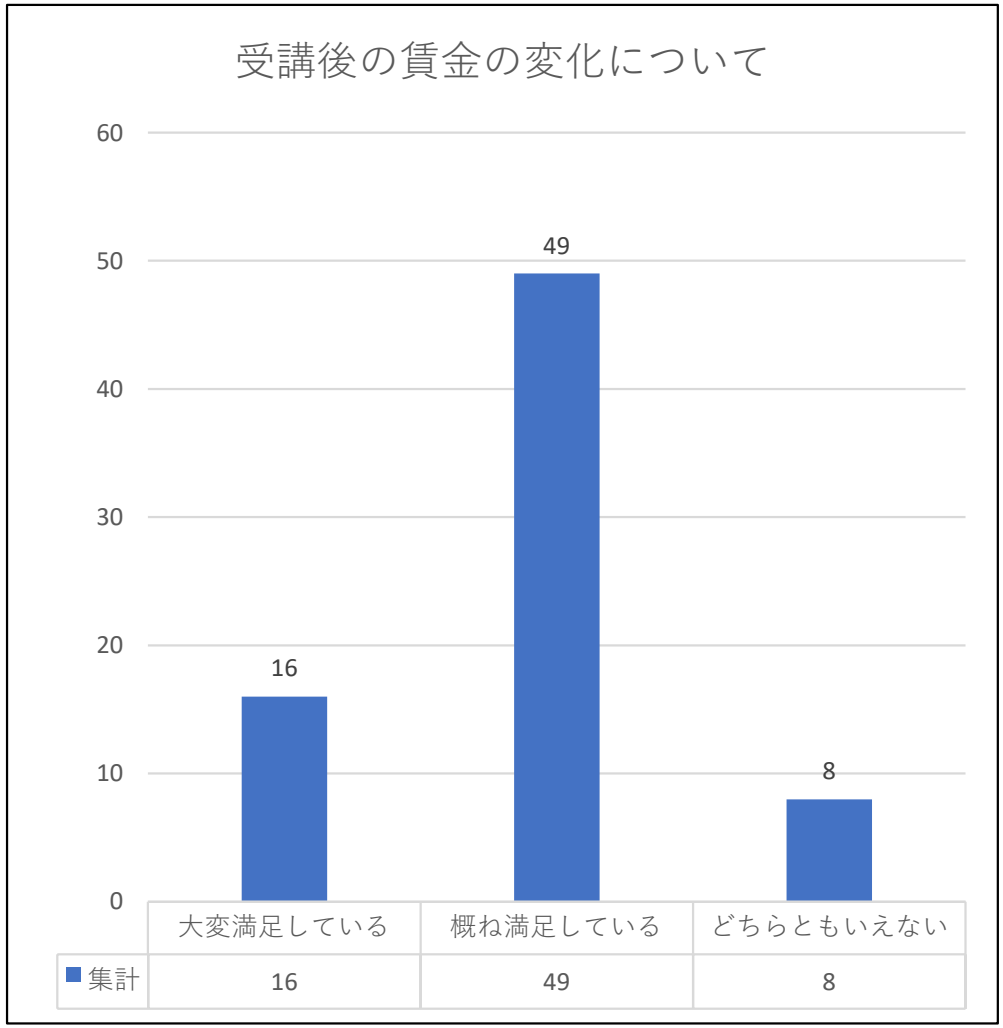




2023年度　意見交換会で頂いた主なご意見

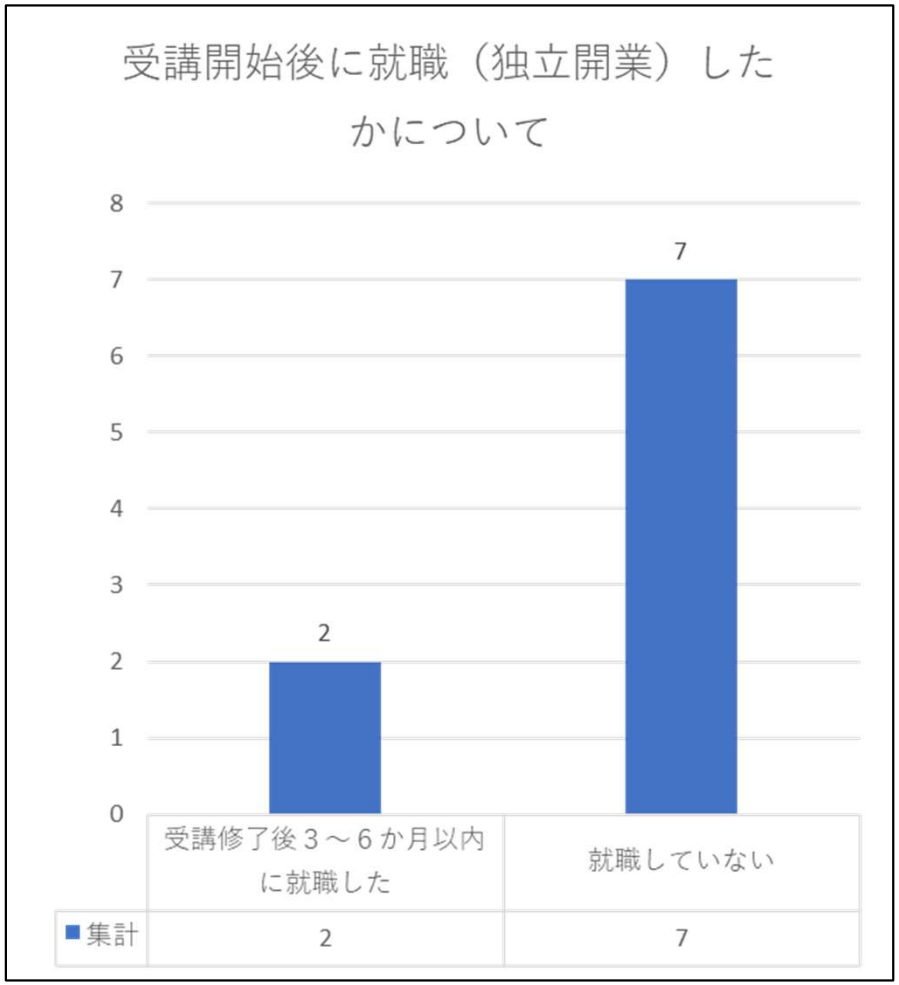
厚労省　現況報告書より、2023年度受講生へのアンケート結果

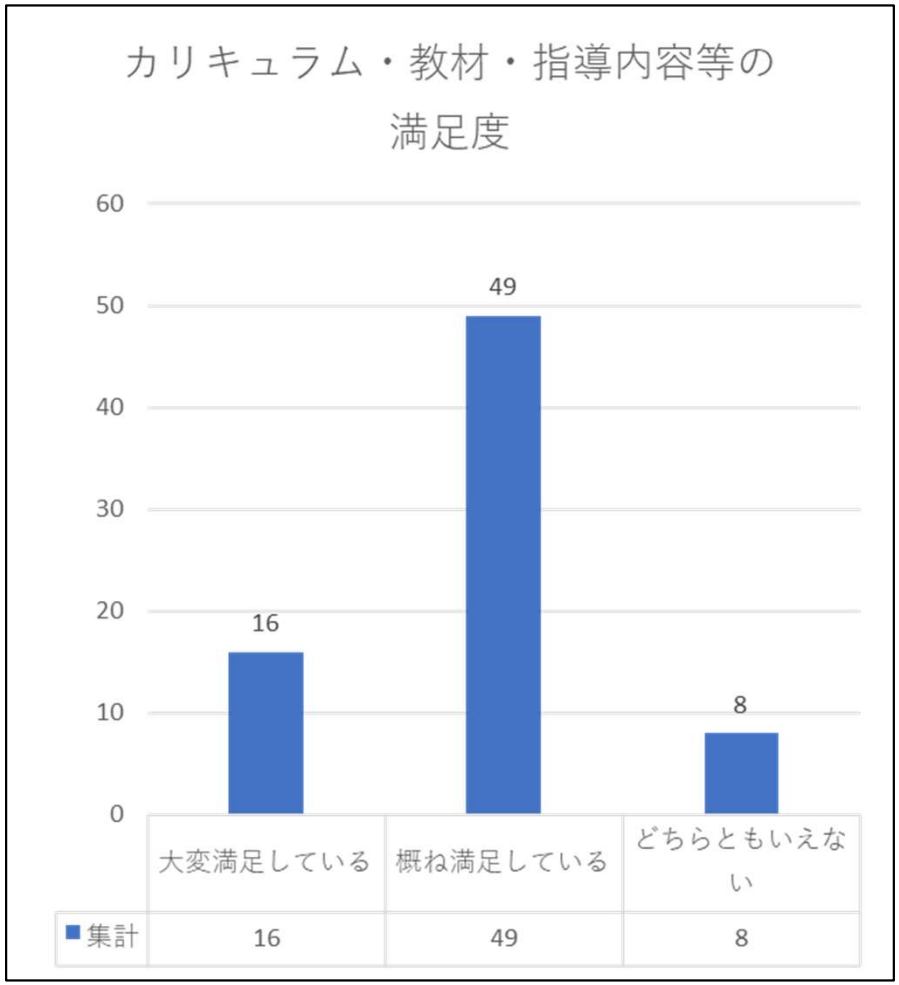




2023年度　意見交換会で頂いた主なご意見

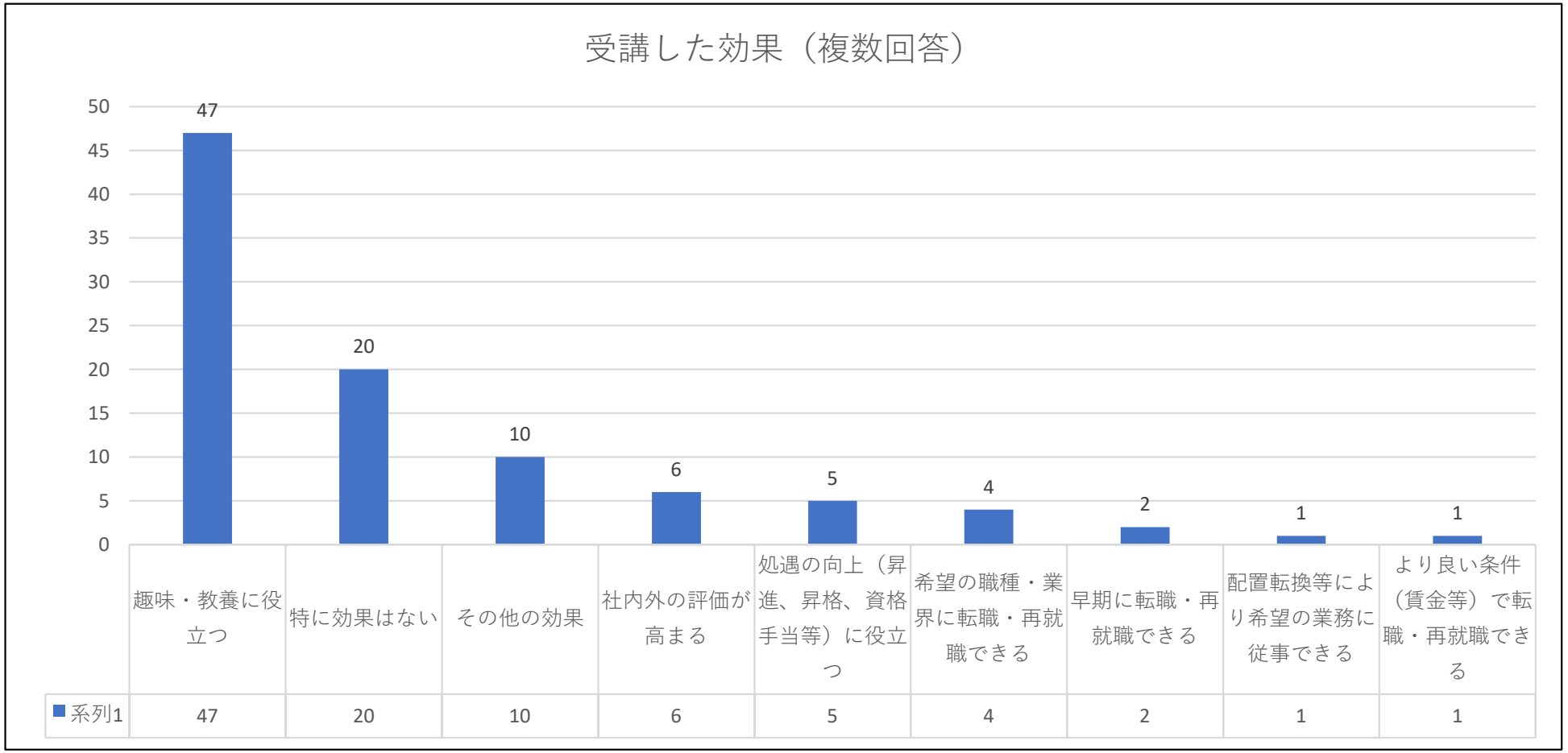
厚労省　現況報告書より、2023年度受講生へのアンケート結果





2023年度　意見交換会で頂いた主なご意見

厚労省　現況報告書より、2023年度受講生へのアンケート結果



2024年度　外部との意見交換会

開催日時：2025年3月4日（火）10：00～11：00

ご参画戴いた団体及び出席者
- 一般社団法人アスリートネットワークより　理事　巽　樹理　様
- 熊取町教育委員会より　学校教育課　学校指導参事　南　宗孝　様
- ミズノ株式会社より　営業統括部　営業推進課　課長　相樂　洋平　様

主な意見交換

- **現場の教員が悩む、いじめの問題、生徒同士の人間関係、顧問と生徒が合わないなどの課題に即したカリキュラムはあるか（巽　様）**
  → 科目「生徒指導に係る対応」であり、いじめ四層構造論、不登校についても少し触れているが、部則・ルールの作成に関するグループワークが主となっている。人・人間にかかわる内容はとても重要な指摘であるため、社会的、心理的な観点から改善を図っていきたい（大学）

- **60時間の受講は長いと思うが、次年度からはある一定の基礎講座で修了証が出るよう検討されたことは有難い（南　様）**

- **修了生が皆JSPO資格を申請しているわけではないようだが、その理由は（相楽　様）**
  → 既に持っているか、プラスで費用がかかるためかと思われる。本プログラムの受講料に加えてJSPOリファレンスブックの購入や管理料等で2万円弱が追加で必要である（大学）

- **受講生の支援という立場と、ゲートキーパーとしての役割がある。修了判定・認定に当たってどのような感覚をもって現場で対応されているかご意見を戴きたい（大学）**
  → 性被害については再犯率が高く、教育現場としては性加害等で辞職した場合は採用しない。
  体罰で懲戒の経験がある方などは、１回目は研修で再教育を受け現場に戻り機会を与えるが、2回目の体罰で完全に部活動の指導を今後一切することができないような懲戒を与えている事例がある（巽様）
  → 大阪市の場合は、部活動指導員として任用する前の申請の段階で「体罰」をこれまでに行っていないことを宣誓させて、今後行わないことを文章化している。その後、校長面談、教育委員会面談、演習の段階を踏まえて任用している（大学）

今年度意見交換会で頂いた主なご意見

- **現場の教員が深刻に悩む、いじめの問題、生徒同士の人間関係、顧問と生徒が合わないなどの課題に即したカリキュラムはあるか（巽　様）**
  → 科目「生徒指導に係る対応」であり、いじめの４階層構造論、不登校についても少し触れているが、部則・ルールの作成に関するグループワークが主となっているので物足りないのが現状である。今後、十分に時間をとって真剣にディスカッションしていく環境を作りたい（大学）

- **60時間の受講は長いと思うが、次年度からはある一定の基礎講座で修了証が出るよう検討されたことは有難い（南　様）**

- **修了生が皆JSPO資格を申請しているわけではないようだが、その理由は（相楽様）**
  → 既に持っているか、プラスで費用がかかるためかと思われる。本プログラムの受講料に加えてJSPOリファレンスブックの購入や管理料等で2万円弱が追加で必要である（大学）

- **受講生の支援という立場と、ゲートキーパーとしての役割がある。修了判定・認定に当たってどのような感覚をもって現場で対応されているかご意見を戴きたい（大学）**
  → 性被害については再犯率が高く、教育現場としては性加害等で辞職した場合は採用しない。体罰で懲戒の経験がある方などは、１回目は研修で再教育を受け現場に戻り機会を与えるが、2回目の体罰で完全に部活動の指導を今後一切することができないような懲戒を与えている事例がある（巽様）
  → 自治体によっては、部活動指導員として任用する前の申請の段階で「体罰」をこれまでに行っていないことを宣誓させて、今後行わないことを文章化している。その後、校長面談、教育委員会面談、演習の段階を踏まえて任用している（大学）

2025年度プログラムの概要と変更点

項目	変更点
受講料	20,500円→38,500円
カリキュラムⅠ	総時間数は履修証明プログラムで定める60時間と変わらないが、 ①基礎科目（10科目20時間） ②スポーツ科学に関する科目（13科目26時間） ③応用科目（7科目14時間） と分類。授業科目も部活動の制度的なものを減らし、スポーツ科学に関するものを増やした。
カリキュラムⅡ	60時間修了の修了証明に加えて、基礎科目の修了時、および基礎科目＋スポーツ科学に関する科目の修了時には大学独自の修了証明を発行する。
カリキュラムⅢ	JSPO資格の申請は今までの60時間修了から、基礎科目＋スポーツ科学に関する科目の修了（46時間）とする。

- **昨年度の意見交換会での指摘「60時間の長さ」もあり、カリキュラムに３ステップを分け、到達ごとに修了証を発行することで、基礎科目だけでいいというニーズにも配慮。**
- **厚労省の教育訓練給付金だけでなく、自治体の補助を目論んだ金額を設定。ステップごとの金額設定はしない**

あくまでも本学は受講生にはプログラムを完走してほしいが、「基礎科目修了証」でOKとする自治体が指導者育成プログラムとして採用できるように変更した。

2025年度プログラムの概要と変更点

運動部活動指導認定プログラム　受講スケジュール（2025年度）

春：5月10日
秋：10月18日

春：5月12日～7月13日
秋：10月20日～12月14日

春：6月5日～8月19日
秋：11月6日～1月18日

春：9月7日
秋：2月8日

ハイフレックス
2科目（4時間）

【基礎科目】
学校部活動と新たな地域クラブ活動
【基礎科目】
こども観・教育観・指導観リフレクション

【内容】
オリエンテーションを兼ねたワークショップ

開講式
オリエンテーション

オンデマンド　25科目（50時間）

必修科目類＼科目数	①9科目（18時間）	②16科目（32時間）
【基礎科目】	2科目（4時間）	3科目（6時間）
【スポーツ科学に関する科目】	5科目（10時間）	8科目（16時間）
【応用科目】	2科目（4時間）	5科目（10時間）

受講方法（全科目共通）：
動画視聴　→　レポート　→　確認テスト

ハイフレックス
3科目（6時間）

【基礎科目】
運動部活動の指導実践　Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

【内容】
実践場面を想定したワークショップ

修了式

修了式までの修得状況と付与・交付するもの	取得できるもの
基礎科目（ハイフレックス5科目・オンデマンド5科目）のみ修得	基礎科目修得認定証（大学独自）
基礎科目（ハイフレックス5科目・オンデマンド5科目）＋スポーツ科学に関する科目（オンデマンド13科目）を修得	基礎科目およびスポーツ科学に関する科目修得認定証（大学独自） JSPO公認スポーツコーチングリーダー資格（予定・別途手続要）
必修科目（ハイフレックス5科目・オンデマンド25科目）全てを修得	修了証（大学独自）、履修証明書（学校教育法に基づく証明書） JSPO公認スポーツコーチングリーダー資格（別途手続要）

2025年度プログラムの概要と変更点

カリキュラム一覧

	科目類	科目名	実施方法	時間数	授業実施日	教員名
必修科目	基礎科目	学校部活動と新たな地域クラブ活動	ハイフレックス	2時間	①	中尾尊喜／滝沢洋平
		こども観・教育観・指導観リフレクション		2時間		中尾尊喜／滝沢洋平
		運動部活動の実践Ⅰ		2時間	②	土屋裕睦／小林博隆／池上正
		運動部活動の実践Ⅱ		2時間		土屋裕睦／小林博隆／池上正
		運動部活動の実践Ⅲ		2時間		土屋裕睦／小林博隆／池上正
		心停止・頭頸部外傷・熱中症への対応	オンデマンド	2時間	春開講：5月～8月 秋開講：10月～1月	有吉晃平
		安全・障害予防に関する知識・技能の指導	オンデマンド	2時間		﨑濱星耶
		体罰・ハラスメントの根絶に向けて	オンデマンド	2時間		土屋裕睦
		事故が発生した場合の現場対応	オンデマンド	2時間		前島悦子／橋本祐介
		女子生徒・障害のある生徒などへの配慮	オンデマンド	2時間		村上なおみ／曽根裕二
	スポーツ科学に関する科目	生徒の発達段階に応じた科学的な指導	オンデマンド	2時間		小林博隆
		コーチングの心理学	オンデマンド	2時間		小菅萌
		発育発達	オンデマンド	2時間		三島隆章
		トレーニング計画	オンデマンド	2時間		三島隆章
		部活動における ICT 活用	オンデマンド	2時間		浜上洋平
		スポーツ倫理	オンデマンド	2時間		森田啓
		スポーツ栄養学	オンデマンド	2時間		近藤衣美
		バイオメカニクス	オンデマンド	2時間		貴嶋孝太
		運動部活動とメンタルヘルス	オンデマンド	2時間		土屋裕睦
		ゲームパフォーマンス分析	オンデマンド	2時間		岡村修平
		コーチング	オンデマンド	2時間		尾関一将
		スポーツマーケティング	オンデマンド	2時間		藤本淳也
		スポーツマネジメント	オンデマンド	2時間		冨山浩三
	応用科目	部活動指導員とチーム学校	オンデマンド	2時間		中尾尊喜／滝沢洋平
		学校教育と保護者への対応	オンデマンド	2時間		中尾尊喜／滝沢洋平
		服務	オンデマンド	2時間		泉谷章仁
		顧問や部活動を担当する教諭等との情報共有	オンデマンド	2時間		泉谷章仁
		部活動の管理運営	オンデマンド	2時間		成瀬雅巳
		中学校の理解	オンデマンド	2時間		成瀬雅巳
		保健室（養護教諭）との連携	オンデマンド	2時間		田中良
自由選択科目		剣道・水泳の指導基礎	オンデマンド	2時間		村上雷多／浜上洋平
		陸上競技・サッカーの指導基礎	オンデマンド	2時間		貴嶋孝太／石居宜子
		バスケットボール・バレーボールの指導基礎	オンデマンド	2時間		比嘉　靖／長江晃生
		ハンドボール・テニスの指導基礎	オンデマンド	2時間		下川真良／岡村修平

【追加科目】
- コーチングの心理学
- トレーニング計画
- スポーツ栄養学

【微修正科目】
- 部活動の意義と位置付け　⇒　学校部活動と新たな地域クラブ活動（タイトル変更・内容に社会体育追加）
- 生徒指導に係る対応　⇒　こども観・教育観・指導観リフレクション（タイトル変更）
- 部活動指導員制度の概要　⇒　部活動指導員とチーム学校（部活動指導員制度の概要・学校外での活動の引率を統合し改名）
- 学校外での活動の引率　⇒　学校教育と保護者への対応（学校教育及び学習指導要領・保護者への対応を統合し改名）
- 障害のある生徒などへの配慮・女子生徒への配慮　⇒　女子生徒・障害のある生徒などへの配慮（統合）

60時間を「基礎科目」「スポーツ科学に関する科目」「応用科目」に分ける際に、「基礎科目」+「スポーツ科学に関する科目」でJSPOスポーツコーチングリーダーが取得できる目安となる46時間とした。

プロジェクトメンバー

氏名	担当
神﨑　浩（副学長・教授）	プロジェクト責任者
中尾　豊喜（教授）	グッドコーチ養成セミナー　リーダー
小林　博隆（准教授）	運動部活動指導認定プログラム　リーダー
成瀬　雅巳（教授）	グッドコーチ養成セミナー　サブリーダー
滝沢　洋平（講師）	運動部活動指導認定プログラム　サブリーダー
土屋　裕睦（教授）	アドバイザー
藤本　淳也（教授）	アドバイザー
教職支援センター	プロジェクトミーティング運営 教育委員会対応 グッドコーチ養成セミナー管理 運動部活動指導認定プログラム・ハイフレックス授業補助
教学部教務担当	運動部活動指導認定プログラム・全体管理
庶務部研究支援担当	プロジェクト予算管理・契約関係
スポーツ局	運動部活動指導認定プログラム運営